

文化財ニュース いわき

第 48 号

平成 7 年 11 月 27 日

財団法人いわき市教育文化事業団

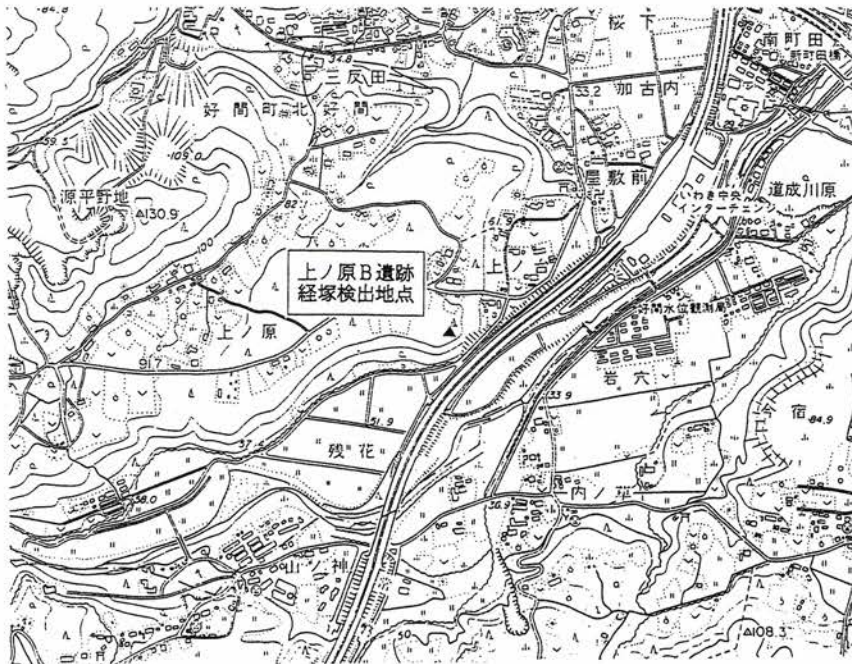
福島県いわき市中央台立いわき公園内

TEL 0246(29)0391

上ノ原B遺跡の経塚

—— 常磐道延伸関係遺跡発掘 ——

たいら よしま しょうぼんどうえんしん
平・好間地区の常磐道延伸関係発掘調査は、昨年度当初より実施されてい
ますが、常磐道いわき中央インター内より500mほどの丘陵先端から、予
想もしなかつた ^{きょうつか} 経塚が1基発見されました。段丘礫の多い地点に、^{だんきゅうれき} 礫積み ^{れきづ} の
小丘があり、約600個もの礫を取り除くと、直径2m・深さ0.9mの穴
が表われたのです。中央に小さな石室を作り、ここに銅製経筒を安置し、周
辺には鉄製小刀や鉄鏃が何本も副納品として供えてありました。



第1図 上ノ原B遺跡経塚検出地点

一般に経塚つねづかというのは追善しゆぜんや結縁けつえんの供養くやうのため、紙かみに写経しやくきやうしたものを銅製どうせいの経筒きやうきゆうに入れ、地中ちちゆうに埋納まいなつした所をいいます。ときには鏡かみ・刀身とうしん・鉄鍬てつこ・合あ子し（小器物）などをいっしょに埋納まいなつしています。平安時代後半へいはんに盛行せいこうし、室町時代末むろまちになると小型せうがたの経筒きやうきゆうが全国各地ぜんこく各地くわいに埋納まいなつされるようになります。

いわき市内いわけでも白水阿弥陀堂しらみずあみだどう背後せうごの山頂さんていに経塚つねづかのあったことがわかっていますし、平・泉崎ひら・いづみさきの京塚きやうづか地内ぢないにもあったと言いわれています。ただ経筒きやうきゆうやお経おきやうなどはまったくわかっていません。平・下平窪ひら・しもひらくぼの諸荷遺跡しよかゐしでは、めずらしく鉄製てつせい経筒きやうきゆうの破片はくぺんが発見はつけんされましたが、大きさなど全体ぜんたいのようすは不明ふめいです。

福島県内ふくしまの平安時代経塚へいはんとしては13例目れいもく、銅製どうせい経筒きやうきゆうとしては9例目れいもくとなりますが数は少し変わるかもしれません。いずれにせよ、例れいの少ない貴重きゆうちゆうな考古資料かうこしりであることには変わりはありません。

全国ぜんこくで最古さいこの経塚つねづかは、寛弘かんこう4年しんぶせん（1007）に大和国金峰山きんぶせんで行いなわれたふじからみちなが藤原道長ふじはらみちながの埋経まいきやうによる経塚つねづかだと言いわれています。県内けんないの経塚つねづかでは、大治たいじ5年きたかつし せんじ（1130）の年号ねんごうが記きされた喜多方市きたかたしの千光寺せんこうじ経塚つねづかが、もっとも古い年号ねんごうの記きされた経塚つねづかです。

須賀川市すかがわ米山寺まいさんじ経塚つねづかは、明治17年めいしに調査ちゆうさが行いなわれました。この経塚つねづかからは、紙かみにお経おきやうを書かいたいわゆる紙本経しほんきやうが発見はつけんされました。保存状態ほぞんじたいもきわめてよく、全部ぜんぶで11巻まきありました。朱書しゆしよの経文きやうもんは「法華経ほっけきやう」「無量寿経むりやうじゆきやう」がふく含まれておいたと言いわれています。惜あしいことに内務省ないむしやうで保管中ほかんちゆう、大正12年たいしゆうの関東大震災かんとうだいしんさいで焼失しやうしつしてしまいました。十分調査じふぶんちゆうさされていなかったため、内容ないようも一部いっぶしかわかっていません。米山寺経塚群まいさんじつねづかぐんは国指定史跡くにじゆんじ、経筒きやうきゆうなどの出土品いっかつは、一括いっかつして国指定重要文化財くにじゆんじちゆうじゆうとして大切に保存ほぞんされています。

県内けんない経塚つねづか出土いっかつの平安時代紙本経へいはんは、今回こんかいで5例目れいもくです。米山寺経塚まいさんじ以外いげは残存状態ざんぞんじたいが悪く、塊状かたまりじやうになっていて開ひらけられる状態じたいではありません。

上ノ原B遺跡経塚の場合、丘陵先端部という立地条件は他と同様で、背後には水石山や^{あかいだけ}関伽井嶽が見えますし、前方には好間の低平地が一望される位置にあります。ただ、寺院・神社の境内に多いという立地条件にはあてはまらず、今のところ該当する寺院等もありません。

現在経筒は東京国立文化財研究所に運ばれていますが、経筒の保存処理、紙本経の取り出し、開卷、裏打ち等の作業が行なわれています。紙本経は全部で11巻封入されているようですが、開卷作業は慎重に行なわれています。一般には法華経が多いようですが、どんな種類のお経なのか、^{かんき}刊記に書かれているであろう年号や願主名など期待される事項は数多くあります。なぜこの場所が選ばれたのかもわからない点の一つです。また、鉄製小刀・鉄鏃の埋納のようす、多量の木炭の意義など一つ一つ今後検討されていきます。

この資料は、単に考古学的に重要であるばかりでなく、平安時代のいわきの歴史にとっても、きっと新しい知見をもたらすことでしょう。



第2図 経筒の埋納状態と副納品の出土状態

いわきからの情報発信



* 文化庁主催の「95新発見考古速報展」に、「荒田日条里遺跡」の「木簡」等が出品されています。その解説集『発掘された日本列島』が朝日新聞社より発行されています。1冊1,500円です。カラーで「木簡」と「人面墨書土器」が紹介されています。お近くの本屋さんでどうぞ。東京国立博物館を皮切りに全国巡回中ですが、最終回12月は沖縄で開催されます。

* 「相子島貝塚」の整理作業は、今夏1mmメッシュの篩でふるった微細な資料をピンセットで、「ウニの殻」「巻き貝の蓋」「タイ・スズキ・サメ・ウナギ」などの魚などと、根気のいる分類作業を懸命に続けていました。

* 泉第3土地区画整理事業関連で発掘調査した泉町C遺跡から、S字状口縁を持つ土師器や異型高杯の土師器が検出されました。市内では珍しい出土資料です。

* 新聞等の記事によりますと、来年度30周年を迎えるいわき市の記念行事として「恐竜」をテーマにした「国際シンポジウム」や展示会が開催されるようです。

* 文化財巡りは2回とも定員を上廻る応募がありました。7月は、清戸迫装飾横穴壁画の実物の迫力に感動し、草野心平の天山文庫は、雨でかえって風情と風格を感じました。10月は県立博物館の企画展で、仏教美術の優品にふれ、山形では「稻荷山古墳」の整備状況その他を見学しました。

訂正 * 先号に下記のような誤りがありました。お詫びして訂正します。

- ・ 2頁と3頁は逆になります。また第2図の上と下の写真も逆になります。
- ・ 第3図中国の主な窯業地。堺市立埋文センターの森村氏より漳州窯の位置が間違っていると指摘されました。徳化窯の南の海岸よりとなります。